

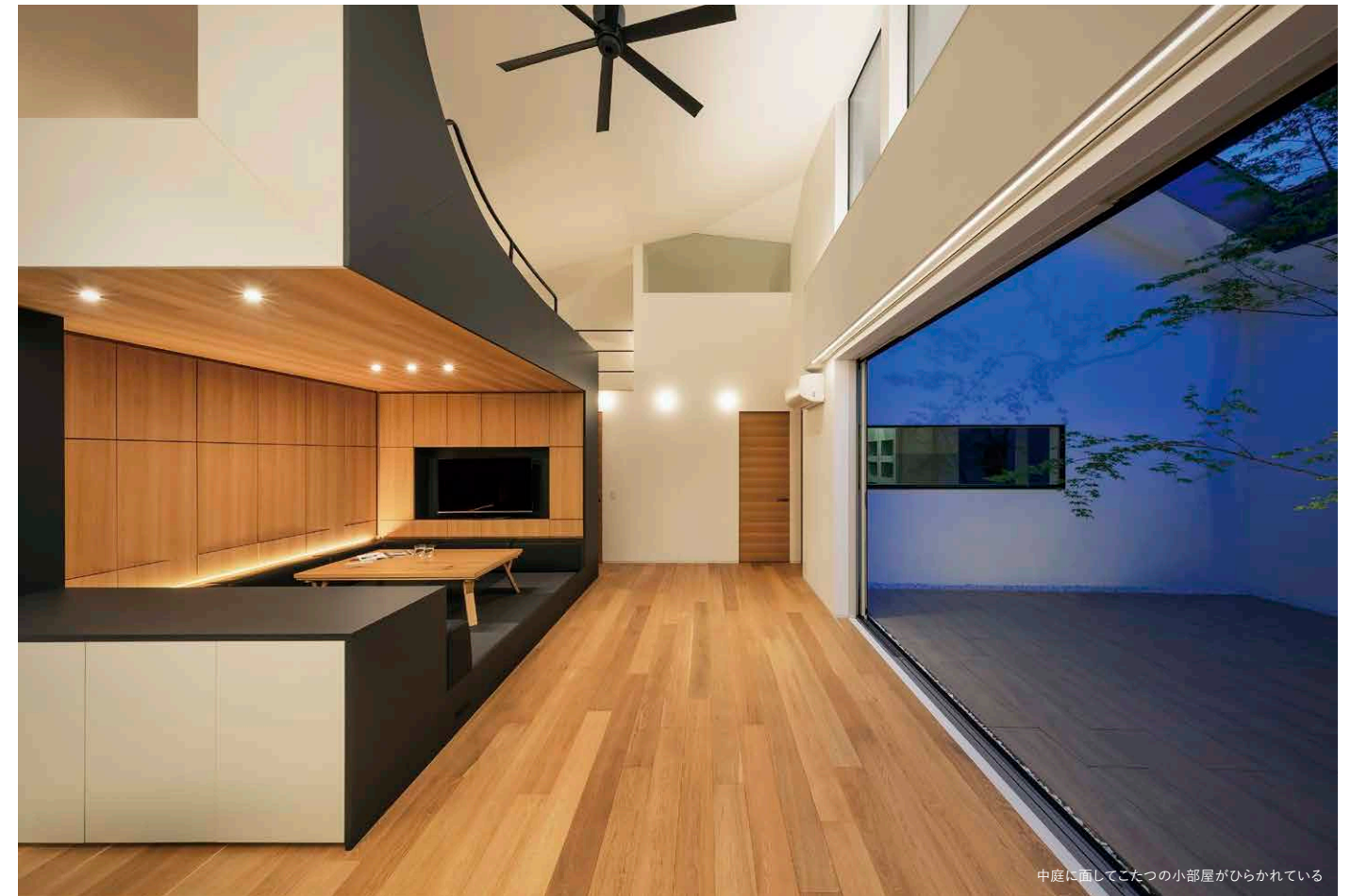
かたつむりの家

高い天井をいかした「メガファニチャー」がある家

設計/株式会社 seki.design
撮影/福澤 昭嘉



メガファニチャーはこたつの小部屋であり、ライブラリーであり、収納であり、階段であり、ロフトである。メガファニチャーはメラミン化粧板で構成



中庭に面してこたつの小部屋がひらかれている



ロフト部分は畳敷きで地べたにすわって過すライブラリー兼、子供の遊び場となっている

「かたつむりの家」の広くて天井の高いLDKには、この家のシンボルとなるような大きな家具「メガファニチャー」が据え付けられている。この「メガファニチャー」は本棚となり、小上がりとなり、背もたれのあるこたつとなり、ロフトをつくりだす構造物ともなるものだ。この「メガファニチャー」は、「本棚のかたまり」を掘り込むようなイメージでデザインした。そして掘り込んでできた小さな洞穴のような空間には、こたつを置いている。家族や仲間ですく寄せ集まって団欒するというのがこたつの魅力だ。そのためにこの天井の低い、手ごろな大きさの空間は最適ではないか。広いLDKだが、そこにほっと落ち着けるような場所を設えることで、空間に変化が生まれたと思う。本棚の一部は飾り棚となったり、テレビを埋め込んだり、階段となったり、扉のついた収納となったりと、様々な機能を付加することが可能となっている。

審査員講評/小坂 竜

家族が集まる天井が高く広いLDK空間に家のシンボルとなる「メガファニチャー」が鎮座している。そのダイナミックな形体と色調の存在感は圧倒的であり、そこに一家団欒の掘りこたつスペースや書棚、階段、収納、メゾネットのロフト空間と多くの機能が混在している。その大胆なフォルムを成立させ、機能上当然必要な耐久性や安全性、そして大胆な色や素材感が必要となる。従来、本物の素材を使用したいが、経済性や耐久性重視の為にメラミンを選択する使用例が多い中、家のシンボルをメラミンで創り切る大胆さとしっかりとした機能性が両立している点が、評価された。



石 憲明

株式会社 seki.design代表
1995年 甲南高校卒業
2001年 大阪大学大学院工学研究環境工学専攻卒業
2005年 一級建築士事務所 seki.design設立
2012年 株式会社 seki.designに組織変更
神戸市都市デザイン賞受賞
グッドデザイン賞2016受賞
COOL JAPAN施工事例コンテスト金賞・銀賞

使用部材

内装(家具): メラミン化粧板
(K-6300KN、
TK-6306KN、
TJY2056K)